

第4回学校運営協議会議事録

令和6年12月10日（火）14：00～

於：石橋小学校校長室

参加者：中川会長、櫻井委員、伊沢委員、
有野委員、熊倉地域学校協働活動推進員、
川島校長、中川教頭、小野瀬事務長、
堀井地域連携教員、平石（10名）

あいさつ 川島校長

- ・ 児童表彰、人権集会お世話になりました。
- ・ 5年臨海自然教室での児童、教師の学び。
- ・ 年末を迎え授業時数・進度の確保。年度末に向けての準備。

1 学校評価の結果の概要説明（中川教頭）*別紙参照

児童・保護者・教職員による評価（点数および前年度との比較から）

- ・ 「学校が楽しい」児童・保護者・教職員とも良好。
- ・ 「家庭学習」児童・教職員が高いのに対して、保護者が低い。
- ・ 「読書」児童・教職員が高いのに対して、保護者が特に低い。家庭から見えにくい。
- ・ 「行事」ねらいの達成と、授業時数確保、教師の働き方改革と併せて考える必要。
- ・ 「いじめ」家庭から見えにくいところであり、数値が下がる傾向。
- ・ 「あいさつ」教師の評価が高い。家庭からは見えにくい。
- ・ 「係・委員会・清掃」学校ではよくできているが、家庭では少ないか。家庭でも児童に役割を与えてほしい。
- ・ 「食育・マナー」昨年度から低い。
- ・ 「小中一貫教育」児童・職員が高いのに対して、保護者が低い。家庭から見えにくい。PR、理解を得ることが課題。
- ・ 「テレビ・ゲーム時間」児童の評価が低い。保護者も自信がない傾向。約束を決めても守れていない可能性。

教職員評価

- ・ 「体育・安全」石橋中学校区共通の準備体操、本校独自の握力向上への取組。
- ・ 「いじめ・不登校」取組への自己評価が高いのに対して、不登校児童は一定数あり。
- ・ 「道徳」力を入れた取組が少なかった。
- ・ 「日課」週内に2パターンの日課。児童の生活リズム構築のために統一する。
- ・ 「学級での人間関係づくり」学級力アンケートを活用し、課題解決に当たっている。
- ・ 「読書・学校図書館」貸出冊数が伸びている。お話会・民話ボランティアの活用。
- ・ 「授業づくり・ICT活用」学校課題研修などを活用し研鑽。
- ・ 「地域教育力」ボランティア活用法の手続き簡略化により増やせるとよい。

2 意見交換・協議（今年度の振り返り・次年度に向けて）

<桜井>*別紙参照

- ・ 「図書館活用」教職員の自己点検集計、昨年度より向上。「読書」は微増。違いは？
- ・ 自身の経験、読書に興味をもったのは、中学生になってから。読みたい児童に、適切な環境を整えられればよい。
- ・ 「いじめ・不登校」、保護者の数値は低い。学校・我が子に対する期待値と実態との違いではないか。保護者と教職員の連携が大切。不登校の現状はどうか。「不登校＝悪」ではない。自分の親としての経験から、無理矢理登校させる必要はないと考える。
- ・ 「黙食」本来はコミュニケーションを取りながらがよい。食育は家庭が基本。
- ・ 「テレビ・ゲーム」は家庭が基本。

<伊沢>*別紙参照

- ・ 運動会、持久走、児童表彰、保護者から「よかった」との感想。
- ・ 夏の体育の授業。体育館にエアコン設置の予定はあるか。
- ・ 石小の児童対応はありがたい。修学旅行の様子メール配信。親には伝わるが、祖父母に伝える方法を考えてほしい。
- ・ 小学校での学びや経験が、中学校生活に生かされている。繋がっている。
- ・ 児童への励みとなるよう、褒める・祝う場面を作ってほしい。(通信票、行事等)

<有野>*別紙参照

- ・ 「読書」孫（本校在学）は、スポーツ活動で、なかなか読書の時間が取れない。
- ・ 「いじめ」早期発見、早期対応に限る。自校のマニュアルを遵守してほしい。
- ・ 「食育」食品ロスの軽減に向けて、食糧自給率や、飢えに苦しむ子のことを伝えてほしい。「旬」を伝えることも大切。
- ・ 「テレビ・ゲーム」帰宅したらまずは宿題、を啓発。
- ・ 「地域連携」学校だよりを楽しみにしている。
- ・ 「物価高」生活困窮者への啓発を。
- ・ 「道徳」への取り組み方はどうか。

<熊倉>*別紙参照

- ・ 学校がやらなければいけないことが多すぎる。家庭のことは家庭が責任を負うべき。
- ・ 「読書」家庭への啓発も。
- ・ 「いじめ・不登校」誰でも被害者、加害者になり得る。強い心、優しい心を醸成することが大切。ケースバイケース。
- ・ 「地域連携」小中クリーン活動、石小学区では大人の参加も増えた。教師がチームとして取り組み、子どもが生き生きとしてほしい。

<中川会長>*別紙なし

- ・ 「読書」金曜日に読書した児童に尋ねて、おもしろかったところを紹介、ミニ賞状を渡すなどの方法（強制しないで関心を高める）がよいのではないか。
- ・ 「いじめ」人権集会に向けて書いてもらったいじわるカード。児童間で相手を傷つける言葉が使われることのないように啓発してほしい。
- ・ 「食育」「ゲーム」親に質問してみてもどうか。その上で、学校での様子や困りごとをお願いするとよいのではないか。ゲーム依存では、前頭葉の発達を妨げたり、怒りっぽくなったりする傾向も。
- ・ 正担任2人制、関西で始まる。児童は相談しやすい方に話せる。予算の問題。
- ・ 朝の預かり。(学童保育の朝版)期待されている。
- ・ 教室環境を整えることで、登校渋りの児童が入室できることも。
- ・ オーストラリア、少年のSNS禁止。利用の弊害を共有した上で、下野市でもPTAと協力し実施できないか。(川島校長→危険を知って学ぶこともある。一律の禁止は難しい。)

<川島校長>

- ・ 学校評価の意義。数値化することによって、実態を読み解くことに意味がある。指導の改善や児童の健全育成に生かせるように活用していきたい。
- ・ 体育館のエアコン設置工事。整備できるよう市で話が出始まっている。
- ・ メール配信(すぐーる)登録は、祖父母も可。学校からもPRしたい。
- ・ 生涯学習センター活用の手間の煩雑さ。学校側と双方の歩み寄りが必要。
- ・ 小中合同クリーン活動、児童生徒が生き生きと取り組んでいた。校長会での反省事項も踏まえ、次年度に生かしたい。

3 事務連絡

- ・ 第5回学校運営協議会 令和7年1月30日(木)14:00~
- ・ 令和7年度の学校運営協議会員、継続がありがたい、紹介も歓迎。本年度9名→10名に戻したい。

あいさつ 川島校長

- ・ 学校評価の反省を踏まえながら、今後の指導に役立てたい。
- ・ 「いじめ」被害者親子、加害者親子より、教師が最も謝らなければならないことになっている現状に違和感がある。「いじめはダメ」を児童に植え付ける方法を模索するとともに、困難から立ち直る力を身に付けさせていきたい。